

# 東奥日報

夕刊

2010(平成22)年  
5月24日(月)

〒030-0180  
青森市第二問屋町3丁目1番89号  
東奥日報社  
電話(017)739-1111  
©東奥日報社 2010

ホームページ <http://www.toonippo.co.jp/>

読者相

第42679号

## 地域の文化伝えたい

### 夢を形に

青森に生きる女性たち

14

「写真お撮りしましよ  
うか」。NPO法人「県  
日本文化を伝承する会」  
理事長の前田歌子さん  
(70)は、青森市の県観光  
物産館アスパムで津軽の  
民話「とげくりがに」な  
どを語り終えると、県外  
からやって来た観光客に

# 心を込めたふれあい大切

声を掛けた。  
「おせっかいかもしれ  
ないが、自分が観光客だ  
ったらちよっとした心遣  
いがうれしいこともある  
から」と、観光客から渡  
されたカメラを向ける。  
前田さんが大切にしてい  
るのは「心のもてなし」  
だ。人との出会いは一期  
一会。前田さんが長く親  
しんできた茶道の精神と  
も通じる。  
ほんのささいなこと  
あっても人とのふれあい  
によって、旅がより思い  
出深いものとなる。19

97年にドイツのニル  
ンベルクを訪れたときの  
こと。前田さんが着物で  
街を歩いていたら5、6  
歳の男の子が「キモノ」  
と大きな声で言って近寄  
ってきた。その子の一家  
は以前、日本に住んだこ  
とがあり、青森ねぶた祭  
も知っていた。記念にと  
父親が写真を撮って、わ  
ざわざ送ってくれた。前  
田さんにとって今も大切  
な一枚だ。

と大きな声で言って近寄  
ってきた。その子の一家  
は以前、日本に住んだこ  
とがあり、青森ねぶた祭  
も知っていた。記念にと  
父親が写真を撮って、わ  
ざわざ送ってくれた。前  
田さんにとって今も大切  
な一枚だ。

「伝承する会」は、観  
光ボランティアガイドや  
民話かたりべの養成、国  
際交流を大きな柱に活動  
している。地域の魅力を  
再発見する楽しさがあ  
る。誇りを持って守り、  
語り継いでもらいたい、  
と人を育てることに力を  
入れてきた。「人が一番  
の宝。人が地域をつくら  
せていく。人を育てるのは  
難しいし、時間がかかる  
がそれをおろそかにして  
はいけない」とじっくり  
腰を据えて取りかかる。

「伝承する会」は、観  
光ボランティアガイドや  
民話をつつたところ、患  
者が手を握って離さな  
った。涙ぐむ人もいた。  
「元気をもらった」と、  
アスパムに訪ねてくる人  
もいる。前田さんにとっ  
て大きな心の支えだ。「文  
化・芸術はせいたく、遊  
びとみられがちだが、そ  
れによって心が豊かにな  
るなど、心への働き掛け  
がある。私は私の考えた  
道を行く」と信念は揺る  
がない。

「好奇心を持ち続ける  
(生活文化部・柳寿子)



「ニルンベルクから送られてきた写真を手に「懐かしい」とほほえむ前田さん

「こと」が前田さんの原動  
力。「何事も人との出会  
いから始まる。さまざま  
な人の話を聞きたい」と、  
弘前大学で毎年夏に開か  
れているシニアサマーカ  
レッジに通い、あおもり  
ツーリズム人づくり大学  
「はやて」にも欠かさず  
参加している。「生涯現  
役で一生勉強」をモット  
ーに生きてきた。

東北新幹線全線開業を  
12月に控え、前田さんは  
熱い思いを語る。「地域  
の垣根を取り払い県民一  
丸となって、観光客をも  
てなしたい。観光業に携  
わる人だけでなく、わた  
したち一般の市民にも、  
街の魅力や文化、心を伝  
えることはできるはず。  
心を込めてもてなせば、  
リピーターも増やせる。  
ハードの整備も大事だろ  
うが、最後は人と人との  
ふれあい」。言葉に自然  
と力がこもる。

「外国では言葉が通じ  
なくても笑顔で接してく  
れる。それだけで印象が  
ずいぶん良くなる。私た  
ちも見習いたい」。アス  
パムで開くかたりべの会  
では、満面の笑みで「ま  
だ来てけへー」と締めく  
くる前田さん。人が好き  
でたまらない、というの  
が伝わってくる笑顔だ。